

## 応用物理とベンチャービジネス -学会発ベンチャーの起業に向けて-

近年、日本の企業は研究開発の余裕がなくなり、人材育成も難しくなっています。その解決の鍵を握っているのが産学連携や大学発ベンチャーであると期待されています。大学が基礎研究を行い、企業はそれを製品化して利益を生み出す産学連携は、近年大学の果たすべき社会貢献、地域貢献策としておおいに推奨されるようになりました。また、大学（学会）発ベンチャーは、技術革新により日本の産業競争力を伸ばすため、産業と大学が直接結びつくビジネスの仕組みとして推奨され、国レベルあるいは地域レベルでの様々なベンチャー起業支援策あるいはベンチャー企業支援策が打ち出されています。

大学で生まれた技術や研究成果を基に設立される大学発ベンチャーは、日本で 1500 社を超えましたが、そのうち 4 割がいわゆるバイオ系であり、先端技術の研究開発を志向する応用物理学の果たす役割がいま問われています。このような現状を踏まえ、応用物理分野の研究成果をベンチャー起業に結びつけることは、日本の発展に不可欠であるとの観点から、本シンポジウムを企画しました。産官学連携の大学（学会）発ベンチャー起業の経験談を伺うとともに、経産省、JST、産総研、NEDO などのベンチャー起業およびベンチャー企業支援策についてお話しいただきます。本シンポジウムが応用物理学によるベンチャー起業、ベンチャー企業の振興を図るとともに、その役割や今後の課題について考える場となれば幸いです。

なお、このシンポジウムでは、「応用物理」創刊 75 周年記念事業の一環としてまとめた「応用物理における将来ビジョンマップ」を会場前の廊下に展示すると共に、その概要についても皆様にご紹介する予定です。

会員の皆様、会員外の皆様の奮ってのご参加を期待し、ご案内致します。

日 時； 2007 年 9 月 4 日（火） 13:30～16:10  
（第 68 回応用物理学会秋季学術講演会 初日午後）  
場 所； 北海道工業大学 G 棟 1 F -G104 (D 会場)

### プログラム

- 13:30-13:35 挨拶 尾浦憲治郎会長（阪大）  
【第一部；学会発ベンチャー企業による産官学連携事業の紹介】  
司会 財満鎮明先生（名大）
- 13:35-13:55  
「北海道工業大学における光ファイバ知的資産を活用した大学ベンチャー活動」  
（株）アドヴァンストテクノロジー  
代表取締役 佐々木一正先生（北海道工大）
- 13:55-14:15  
「異分野連携によるタンパク質結晶化技術開発とベンチャー創成」  
（株）創晶 代表取締役 森 勇介先生（阪大）
- 14:15-14:35  
「産総研の産官学連携とベンチャー起業支援」  
（独）産業技術総合研究所 理事 一村信吾氏
- 14:35-14:45 休憩  
司会 石原 宏副会長（東工大）
- 14:45-15:05  
「応用物理における将来ビジョンマップ」  
荒川泰彦先生（東大）
- 【第二部；ベンチャー起業支援策とベンチャー企業支援策】  
15:05-15:25  
「JST のベンチャー創出支援策」  
（独）科学技術振興機構 審議役 小原満穂氏
- 15:25-15:45  
「経済産業省のベンチャー起業支援」  
経済産業省 企画官 渡邊政嘉氏
- 15:45-16:05  
「NEDO によるベンチャー支援」  
（独）新エネルギー・産業技術総合開発機構 研究開発推進部長 橋口昌道氏
- 16:05-16:10 まとめ 石原 宏副会長（東工大）